

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (平成23年10月)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p> <p>・入学者選抜の方法について、「高等学校新卒者に関しては、スポーツ活動の実績、リーダー経験、将来性等を重視」とあるが、これらの素養は高等学校新卒者だけでなく、社会人学生も含め受け入れる学生すべてに必要な素養であると考えられることから、高等学校新卒者以外の学生についても同様にスポーツ活動の実績等を選抜時の判断項目とすること。併せて、「スポーツ活動の実績、リーダー経験等」を、どのような基準に基づき判断するのか明確にした上で、適切に選抜を行うこと。</p> <p>・面接授業の時間割が過密であると見受けられることから、授業科目の質の保証や内容の充実を図り、学生や教員に配慮した時間割となるよう授業計画を再検討し、その計画を着実に実行すること。</p> <p>・レポートの提出が集中する時期の教員や支援スタッフ等の負担に配慮し、適切な人員の配置に努めること。</p>	<p>認可申請通りの科目を設定し、専任教員の逝去による未公開科目(2科目)を除いて、全て開講し、設置計画を履行するよう努めている。</p> <p>全専任教員による初学教育(4月16日～5月11日)を実施中であり、その中で、設置の趣旨・目的等の確認と学生への伝達、通信教育に必要な基礎知識の教育を行っている。また、受講できなかった学生に対しては、各講座の要旨を配布、又、一部科目では映像視聴により、教育内容の漏れがないように務めている。</p> <p>大学にふさわしい教育及び研究活動を行うよう、運営委員会、教務委員会を中心に、各委員会において専任教員が努力している。(24)</p> <p>入学者選抜では、高等学校新卒者に加えて、高等学校新卒者以外の学生についても、スポーツ活動の実績等を選抜時の判断項目とした。</p> <p>入学者選抜における判断項目である「スポーツ活動の実績、リーダー経験等」は、「仕事への熱意」「キャリア設計での成功イメージの強さ」「言葉遣い、行動、身だしなみ」「コミュニケーション能力」「社会における活動実績」「本学での学習計画」の6項目であり、これらをそれぞれ5段階評価し、その合計点(30点満点)により評定した。(24)</p> <p>集中スクーリングでは、同一科目の一日あたりのコマ数上限を4コマとして、時間割が過密になることのないよう考慮し、授業科目の質の保証や内容の充実を図る。(24)</p> <p>設置申請の通り、科目を担当する教員の他、添削指導員、授業アシスタント、教育アドバイザーを十分に配置し、連携し、レポート添削、評価業務を円滑に行う。(24)</p>	

・ウイクリーミーティングの決定を後日理事会の決定とみなす取り扱いをしていることから、今後、適切な理事会の運営に努めること。

・理事、監事、評議員の選任方法に誤りがあることから、寄附行為の規定に基づき適切に行うこと。

・理事会、評議員会の運営に関し、以下の事項について適切に行うこと。

【予算及び寄附行為変更に関する理事会、評議員会の開催順序】

ウイクリーミーティングでの決定を理事会の決定とみなすことはしない。理事会はウイクリーミーティングとは別個に行なっている。(24)

学園の役員、評議員の任期満了に伴う新役員及び新評議員の選任に関して実施した平成22年度第2回理事会(22.4.26)において議決した3議案のうち、監事選出及び評議員8名の推薦に関する議案は、寄附行為では、先ず、理事会において審議、議決し、その後、同議案案件について評議員会においてそれぞれ同意、選任する必要があった。

しかるに、当該議案については、当学園会議開催の事務担当者の錯誤で、平成22年度第2回理事会を評議員会の後に実施しており、理事会と評議員会の審議の順序が逆で、監事選出、評議員推薦の方法に誤りがあった。

この件については、私立学校法第38条「役員の選任」及び同条第44条「評議員の選任」並びに、学園寄附行為第7条「監事の選任」及び同23条「評議員の選任」の規定に反する事である。以後はこのような誤りを起こさないよう法規、規定を遵守し、適切な理事会、評議員会の運営に努める。(24)

平成22年度第14回理事会及び平成22年度第11回評議員会(23.3.10)の理事会と評議員会の開催順序が逆になっていた。

事業計画及び予算については、あらかじめ評議員会の意見を聞くことについては当学園寄附行為第21条(諮問事項)第1項第1号に規定しているほか、文部科学省担当官から説明を受けた「私立大学等の設置に係る寄附行為認可の審査の要点」にも記載されていることである。

当学園の平成21年度以前の事業計画及び予算に関する評議会及び理事会の開催順序については、寄附行為規定のとおり評議員会を先に、理事会を後に実施していた。

しかるに、平成23年度予

		<p>算及び事業計画に関する評議員会及び理事会開催に際しては、当学園会議開催の事務担当者が、前記「私立大学等の設置に係る寄附行為認可の審査の要点」第5項管理運営体制、管理運営状況、事務処理状況（2）項管理運営状況、事務処理状況＜最近の指摘例＞ウ項の記載内容を、理事会を先に、評議員会を後に開催するものと錯誤し開催してしまった。</p> <p>当学園は、学園又は学校の意思及び行為を決定する必要があると予測される案件については、予め、理事会等開催前に「学校法人タイケン学園稟議規程」第3条（ウイクリーミーティング）に規定する常勤理事、常勤評議員その他理事長が指名した非常勤理事、監事、及び非常勤評議員が出席して、毎週月曜日その内容についての意見交換等審議を実施している。平成23年度事業計画及び予算についても、平成23年3月7日、常勤評議員、常勤理事において審議しており、その内容は、当日出席できなかった理事、監事、及び評議員に報告している。</p> <p>しかしながら、ウイクリーミーティングの位置づけは、理事会、評議員会とは異なる審議の場である。従って、平成23年度事業計画及び予算に関しても評議員会、理事会において議決する必要がある、その開催順序は先ず、評議員会をしかる後に理事会を開催するべきであり、従って、開催順序が相違していた。</p> <p>学校法人タイケン学園としては、今回の事象を単に事務担当者の錯誤によるものだけに留めず、学園全般の事務処理、管理体制の問題であることを認識し、以後は会議開催順序を含めた、理事会及び評議員会の適切な運営、開催を実施していく。（24）</p>	
<p>設置計画履行状況 調査時</p>	<p>・当初の設置計画を踏まえ、教育研究環境の整備に努めること。特に図書館について、新書や専門書の充実及び事務職員の適切な配置等を計画的</p>	<p>平成25年3月までに新書、専門書を中心に139冊を補充し、図書館、研究室に配備した（別添1参照）。 事務職員は図書館利用の必</p>	

<p>(平成25年2月)</p>	<p>に進めること。また、通信教育課程であることに鑑みてネットワーク整備を推進すること。</p> <p>・広報に関して、通信教育課程であることが明記されていないものがあることから、受験生に正確な情報を提供できるよう広報活動を見直すこと。</p> <p>・公開講座や教室、グラウンド等の施設の開放による、地域との交流について検討することが望ましい。</p> <p>・大学と専門学校の授業を混同している学生がいることから、履修指導等において適切に周知を図ること。</p> <p>・当初の設置計画にはないサテライトキャンパスを設けたことで教員の負担が増えると考えられるため、授業負担や研究時間の確保について配慮すること。</p> <p>・通学課程であるとの認識で通っている学生も見受けられるので、将来的には通学課程の設置も含めて将来構想を策定することが望ましい。</p>	<p>要性に伴い、適時配置した。ネットワークを整備し、科目履修、図書館利用に関する情報提供を進め、通信教育環境の向上と業務効率化を図った。当該ネットワークのサイトでは、学生個別に配置したID、パスワードを用いてログインし、レポート提出期日、試験、補講、行事の日時（別添2、3参照）、ジャンル別の図書館蔵書一覧、貸出・返却状況、個人履歴、図書詳細、書名キーワード検索等の情報提供を行う（別添4～6参照）。一方、ネットワーク管理者は学年、履修科目ごとに区分けして学生管理を行う。また、購入図書、破棄図書、貸出返却の管理等を行う。(25)</p> <p>現在、平成25年度版の学校パンフレットを作成中であるが、最終校正において、従来に引き続き本学が通信教育課程であることを明記した。これに加えて、社会人向けリーフレットを作成し、通信教育を活用による効率的な学習に関するリーフレットを作成し、正確な情報を広報できるように努める。(25)</p> <p>大学の地元・利根町と提携協定を締結し（平成24年8月）、町主催講座や行事等において、地域との交流・連携を実施している。(25)</p> <p>学生へそれぞれの区分けを明確にして伝え、指導する。(25)</p> <p>教員のサテライトキャンパスでの教務は頻度が少なく（年に1～2回程度）、また、各サテライトキャンパスに配置する教務支援スタッフのサポートがあるので、教員の過度な負担とならないよう配慮している。(25)</p> <p>理事会、教授会、各委員会において検討する。(25)</p>
------------------	--	--

設置計画履行状況 調査時 (□□年□□月)	該当なし		
設置計画履行状況 調査時 (●●年●●月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。（認可で設置された学部学科等のみ。）
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<スポーツプロモーション学部 スポーツプロモーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 卒業要件 次の①～④の条件を含めて124単位以上を修得すること。 ①共通科目から必修10単位を含めて40単位以上修得。 ②専門基礎科目から必修8単位を含めて40単位以上修得。 ③専門専攻科目のうち選択するコース科目24単位以上、それ以外のコースから16単位以上修得。 ④面接による授業科目を30単位以上修得。</p> <p>② 履修科目の年間登録上限単位数 新入生、編入生ともに履修科目の年間登録上限は40単位</p> <p>③ 履修形態、講義等の内容 トップスポーツマネジメント論演習Ⅰ (4前, 2単位, 印刷教材20時間・面接10時間) トップスポーツマネジメント論演習Ⅱ (4後, 2単位, 印刷教材20時間・面接10時間)</p> <p>④ 施設・設備 図書6,916冊</p>	<p>① 学生の教育効果を考慮し、共通科目の必修科目（1科目・2単位）を追加。（別添7「新旧対照表」参照）</p> <p>② 編入生が熱心に取り組める環境を柔軟に構築するために年間の履修登録の上限（46単位）を変更。新入生の年間登録上限単位数の変更は無し。（別添7「新旧対照表」参照）</p> <p>③ 該当授業科目の内容の理解をより深めるため、履修形態（面接30時間）、講義等の内容を変更。（別添7「新旧対照表」参照）</p> <p>④ 学生の修学環境を改善するため、図書を139冊増書した。図書は毎年度、増書する。（別添1参照）</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事情については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 FD委員会 開校当初は教授会の中でその業務を行っていたが、平成24年5月からは教務委員会、学生委員会と共同で活動した。FD活動の年間計画の策定及び実施を担当。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） FD委員会 ・平成24年度第1回 平成24年4月17日（出席15名、欠席0名） ・平成25年度第1回 平成25年4月16日（出席4名、欠席0名） ・平成25年度第2回 平成25年5月7日（出席4名、欠席0名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p>
--

F D委員会

- ・平成24年度第1回 活動スケジュール、活動内容
- ・平成25年度第1回 F D研修（平成24年12月20-21日、3月26-28日）の総括、活動スケジュール、活動内容
- ・平成25年度第2回 活動スケジュール、活動内容

② 実施状況

a 実施内容

- ・F D研修実施の準備
- ・F D研修実施

b 実施方法

- ・研修内容の調整
- ・本学・グループ校・法人本部の教職員による講義・演習

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・平成24年度新任教職員研修会（平成24年4月3-4日）（出席4名、欠席0名）※大学勤務未経験者対象
- ・F D研修会（平成24年12月20-21日）（出席7名、欠席8名）
- ・F D研修会（平成25年3月26-28日）（出席13名、欠席2名）
- ・平成25年度新任教職員研修会（平成25年3月26日）（出席4名、欠席1名）※大学勤務未経験者対象
- ・F D研修会（平成25年4月8日）（出席10名、欠席9名）

出席率は校務等で欠席の教員以外はほぼ100%。

本学の方向性と展望、授業方法、レポート添削指導方法、講義の公開による相互評価、研究活動への取り組み、私立学校のマーケティング、学生募集、組織倫理・規律、地域連携、他校の事例、学生指導法等、多岐にわたり学ばせた。一方的な講義ではなく、演習や双方向コミュニケーションを取り入れ、課題発見、課題共有、課題解決を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研修会参加者には、研修内容を踏まえたレポート課題の提出を義務付けている。提出されたレポートは集計され、その要旨を作成し、各教員及び職員に回覧し、課題を共通認識させることで、授業改善へ繋げるように取り組んでいる。F D委員会による活動を、活動の進展に伴い、随時、授業改善へ繋げることとする。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

年度当初の初学教育、一部科目において実施。それぞれ終了後直ちに実施した。ただし、安易な「人気投票」とならないようとする施策を検討中である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学内掲示板、ホームページにおいて公開。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的は、入学式後に行なったガイダンス（平成24年4月13日、平成25年4月4日）と初学教育（平成24年4月16-17日、平成25年4月4-12日）により、学生へ周知することができた。また、設置計画を遂行し、4年制大学に相応しい教育研究活動を目指した。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成25年7月1日 公表

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、希望者に配布。
- ・ホームページ上に公開。

③ 認証評価を受ける計画

完成年度以降、3年以内に評価期間の評価を受ける予定である。また、評価項目を基にして、自己点検を行うべく、自己点検・評価委員会にて準備を進める。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成24年7月1日)

http://www.taiken.ac.jp/images_ac/univ/univ7.pdf

http://www.taiken.ac.jp/images_ac/univ/univ8.pdf

日本ウェルネススポーツ大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、日本ウェルネススポーツ大学学則第3条の規定に基づき、大学設置基準第25条の3の趣旨に沿い、日本ウェルネススポーツ大学（以下「本学」という。）において、本学の教育理念の実現に合致するよう教育内容等の改善を組織的に推進するために設けるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）推進委員会（以下「委員会」という。）の構成、役割及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 学長が委嘱する委員 若干名

2 委員長は、学長とする。

3 第1項第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(任務)

第3条 委員会は、次の事項について審議するとともに、関係方面との連絡調整を行って本学のFD活動が持続的に推進されるよう努めるものとする。

- (1) FD活動の企画立案
- (2) FD活動の実施計画の立案
- (3) FD活動の評価
- (4) FD活動に関する情報の収集と提供
- (5) その他、FDに関する事項

(委員会の開催)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長を務める。

2 委員長に事故ある場合は、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。

3 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

4 委員会は、委員総数の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数の賛成によって決し、賛否同数の場合は、議長の決するところによる。

(教授会等への報告)

第5条 議長は、本委員会の決定事項について教授会に報告する。

(庶務)

第6条 本委員会の庶務は、教務課において処理する。

附則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

別添1 2012年度 新規購入図書

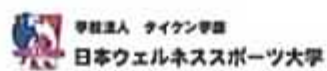
No.	分類	著者	書名	出版社	出版年
1	スポーツ	平尾誠二	日本型思考法ではもう勝てない	ダイヤモンド社	2001
2		ソニー企業	SUPERテーピングテクニック	永岡書店	2001
3		水島新司	水島新司 夢の途中	エイチ・ツーオ	2002
4		杉山茂樹	闘う国家	文藝春秋	2002
5		池田哲雄	完全版 プロ野球人国記 関東編その1	ベースボール・マガジン社	2003
6		牛木素吉郎	ワールドカップのメディア学	大修館書店	2003
7		豊田充穂	帰郷	文芸社	2003
8		野村克也	野村の眼	KKベストセラーズ	2003
9		星野仙一	夢	角川書店	2003
10		松井秀喜	語る	朝日新聞社	2003
11		松本育夫	松本育夫の監督学	郷土出版社	2003
12		池田哲雄	完全版 プロ野球人国記 信越・北陸編	ベースボール・マガジン社	2004
13		大坪正則	プロ野球は崩壊する	朝日新聞社	2004
14		小出義雄	へこたれるもんかい	幻冬舎	2004
15		原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高	スポーツマーケティング	大修館書店	2004
16		広岡達郎	監督論	集英社	2004
17		本間正夫	少年野球コーチング 基本と練習法	西東社	2004
18		松木安太郎監修	コーチングBOOKサッカー	成美堂	2004
19		柳川悠二	井上康生が負けた日	体育とスポーツ出版社	2004
20		大住良之	理想のフットボール敗北する現実	双葉社	2004
21		根本真吾	アメリカでプロになる	彩流社	2005
22		バオロ・ロッシ	セリエAに挑んだ男たち	朝日新聞社	2005
23		平田竹男	トップスポーツビジネスの最前線	現代図書	2005
24		山下秋二・原田宗彦	図解スポーツマネジement	大修館書店	2005
25		村瀬 智彦・出村 慎一	幼児の体力・運動能力の科学—その測定評価の理論と実際	ナッブ	2005
26		木村元彦	オシムの言葉—フィールドの向こうに人生が見える	集英社	2005
27		木村元彦	オシムの言葉—フィールドの向こうに人生が見える	集英社	2005
28		オシム	オシムの真実	EB	2006
29		山口典孝	最強ランナーの法則	MCPRESS	2006
30		山中忍	川口能活 証	文藝春秋	2006
31		金子達仁	敗因と	光文社	2006
32		小西慶三	イチローの流儀	新潮社	2006
33		佐藤俊	主将戦記 宮本恒靖	小学館	2006
34		石川好	投手・桑田真澄の青春	シンコーミュージックエンターテイメント	2007
35		オシム	日本人よ	新潮社	2007
36		西部謙司	最も愛される監督・原博実	芸術社	2007
37		斉藤しづ子	祐樹	小学館	2007
38		島崎英純	ビッグクラブ—浦和レッズモデルができるまで—	講談社	2007
39		島崎英純	ビッグクラブ—浦和レッズモデルができるまで—	講談社	2007
40		長嶋正博	ドラフト—光と影	オークラ出版	2007
41		野村克也	野村ノート	小学館	2007
42		長谷川滋利	素晴らしき日本野球	新潮社	2007
43		原田宗彦	スポーツ産業論第4版	杏林書院	2007
44		原博実	サッカー茶柱観測所	駒草出版	2007
45		星野仙一	星野流	世界文化社	2007
46		八木虎造	イタリアでうっかりプロ野球選手になっちゃいました	小学館	2007
47		吉井妙子	夢を見ない男松坂大輔	新潮社	2007
48		為末大	日本人の足を速くする	新潮新書	2007
49		折山淑美	北島康介 夢、はじまる	学習研究社	2008
50		高橋みゆき	シン！SHIN	実業之日本社	2008
51		原田宗彦・小笠原悦子	スポーツマネジement	大修館書店	2008

52	原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高	スポーツマーケティング	大修館書店	2008
53	山崎武司	野村監督に教わったこと	講談社	2008
54	清原和博	男道	幻冬舎	2009
55	清原和博	男道	幻冬舎	2009
56	岩崎夏海	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	ダイヤモンド社	2009
57	玉木正之 金子達仁	ニッポンはどうすれば勝てるのか?	アスペクト	2009
58	永谷脩	サムライJAPAN 連覇	徳間書店	2009
59	広瀬一郎	スポーツ・マネジメント理論と実務	東洋経済新報社	2009
60	松本秀夫	実況できなかったスゴイ話	ぜんにち	2009
61	左明・山口典孝・石井直方	カラー図解 筋肉のしくみ・はたらき事典	西東社	2009
62	児玉光雄	唯一無二の精神に学ぶ イチロー心理	東邦出版	2010
63	善家賢	金メダル遺伝子を探せ!	角川書店	2010
64	安部孝・瑛子友男	これからの健康とスポーツの科学 第3版	講談社	2010
65	後藤健生	サッカー「真」常識	学研	2010
66	加藤清孝	実践から読み解くスポーツマネジメント	晃学出版	2011
67	桑田真澄	野球の神様がくれたもの	ポプラ社	2011
68	原田宗彦・間野義之	スポーツファシリティマネジメント	大修館書店	2011
69	松村天裕・竹内修二	カラー図解 骨のしくみ・はたらき事典	西東社	2011
70	日本体力医学会体力科学編集委員会	運動処方指針—原書第8版	南江堂	2011
71	野上晴雄・山口俊平・山本正雅	カラー図解 内臓のしくみ・はたらき事典	西東社	2011
72	長谷部誠	心を整える。	幻冬舎	2011
73	シェイラ・ロバートソン編、山口理恵子・根本美代子監訳	TAKING THE LEAD カナダ発女性コーチの戦略と解決策	順天堂大学マルチサポート事業女性リーダーシップ開発プロジェクト委員会	2012
74	シェイラ・ロバートソン編、山口理恵子・根本美代子監訳	TAKING THE LEAD カナダ発女性コーチの戦略と解決策	順天堂大学マルチサポート事業女性リーダーシップ開発プロジェクト委員会	2012
75	高橋由明・早川宏子・H. ドレス・S. ソエダーマン	スポーツ・マネジメントとメガイベント	文真堂	2012
76	田中喜代次、田畑泉	エクササイズ科学—健康体力づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践	文光堂	2012
77	野村克也・野村克則	野村の「人生ノート」夢をつかむ特別講義	日本文芸社	2012
78	荒川裕志・石井直方	プロが教える 筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典	ナツメ社	2012
79	レオナルド フォチオ	メッシ評伝 情熱を秘めて	東邦出版	2012
80	野上晴雄	カラー図解 脳・神経のしくみ・はたらき事典	西東社	2012
81	河野守宏	人の心を見抜く法	三笠書房	1992
82	松本道弘	ディベート入門	中経出版	1997
83	伊藤明	女が28歳までに考えておきたいこと	三笠書房	2001
84	松行康夫	組織間学習論	白桃書房	2002
85	辻本吉昭	Another HERO～もう一人のヒーロー～	小学館	2003
86	カルロスゴーン	カルロスゴーン経営を語る	日本経済新聞社	2003
87	NBAプロダクション	MBAは本当に役に立つか	東洋経済	2003
88	水谷雅一	経営理論	同文館	2003
89	藤沢優月	夢をかなえる人の手帳術	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2003
90	野地秋嘉	サービスの天才たち	新潮新書	2003
91	中嶋忠三郎	西部王国	サンデー社	2004
92	松島克守	MOTの経済学	日系BP社	2004
93	樋口裕一	頭がいい人、悪い人の話し方	PHP新書	2004
94	立石泰則	寂しきカリスマ	講談社	2005
95	藤岡英雄	学びのメディアとしての放送	学文社	2005
96	日垣隆	世間のウソ	新潮新書	2005
97	藤原正彦	国家の品格	新潮新書	2005
98	竹内一郎	人は見た目が9割	新潮新書	2005
99	若松龍人	マネージメント力	経済界	2006
100	ジェフリー・ギトマー、月沢幸歌子	営業の赤本 売り続けるための	日経BP社	2006
101	大楠正瑛	大学の変革と創造に思う	毎日新聞社	2006
102	近昭夫他3名	現代の社会と統計	産業統計研究者	2006
103	板東真理子	女性の品格	PHP新書	2006
104	上杉隆	鑑定崩壊	新潮社	2007
105	清水克彦	出会って1分で相手の心をつかみなさい	かんき出版	2007

106	長谷川記一	大江戸舞祭	アップル・プレス	2007
107	財部誠一	負けない生き方	東京書店	2007
108	勝間和代	無理なく続けられる 年収10倍アップ勉強法	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2007
109	吉野敬介	今、頑張れないヤツは一生頑張れない。	世界文化社	2008
110	佐山展生	企業価値向上論講義 社長の器	日本経済新聞出版社	2008
111	湯川鶴章	次世代マーケティングプラットフォーム	ソフトバンククリエイティブ	2008
112	水島愛一郎	トヨタスピリッツ	インデックス・コミュニケーション	2008
113	千本倅生	挑戦する経営—千本倅生の起業哲学	経済界	2008
114	大西宏	パナソニック底力の秘密	実業之日本社	2008
115	原幸雄	もう騙されないためのヒト・モノ・カネ・ビジネス真贋力	幻冬舎	2008
116	川嶋謙	強い営業はチームで動く 勝てる“提案型営業”の極意	日経BP社	2008
117	平野友朗	コストゼロで人脈と売上を増やす仕事の仕組み	ビジネス社	2008
118	藤岡英雄	学習関心と行動	学文社	2008
119	山口義行	聞かせる技術	河出書房新社	2008
120	橋本賢一	社長！経営が見えていますか？	日本経済新聞出版社	2008
121	浅野裕子	「強運な女」になる57の方法	三笠書房	2009
122	尾木和晴	プロカー仕事の肖像	朝日新聞出版	2009
123	秋庭道博	「まず動く！」人が、仕事は9割うまくいく	学習研究社	2009
124	金井英之	どんな人でも会話がとまらず話せる本	あさ出版	2009
125	青木仁志	一生折れない自信のつくり方	アチーブメント出版	2009
126	小倉康宏	実践経済学	中央経済社	2009
127	産経新聞社政治部	民主党解剖	産経新聞の本	2009
128	山口美和	日本企業における「和」の機能	大阪大学出版会	2010
129	中曽根康弘・梅原猛	リーダーの力量 日本を再び、存在感のある国にするために	PHP研究所	2010
130	丹羽宇一郎	新日本開国論	日系BP社	2010
131	日清食品グループ	3つのヒミツ	食文化振興財団	2010
132	杉澤幹生	世界で戦える強い個を育てる	日本実業出版社	2010
133	リチャードカールソン	小さいことにくよくよするな！	サンマーク出版	2010
134	小松成美	人の心を開く技術	MEDIA	2010
135	筒井康隆	アホの壁	新潮新書	2010
136	朝倉真弓	女子の幸福論	ダイヤモンド社	2011
137	内山義英	1番になるビジネス創造力—大震災を乗り越え、巨大市場を創造した軌跡	幻冬舎	2011
138	山内昌之	リーダーシップ	新潮新書	2011
139	古賀茂明	日本中枢の崩壊	講談社	2011

その他

別添 2



025620 情報一覧

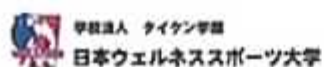
最新 2013年 05月 金曜日 (「[国書院](#)」)

2013.07.18 更新情報

[国書院](#)の認定試験結果は「[国書院](#)」

Copyright © 2013 Nippon University of Health and Sports

別添3



学長 渡辺 泰久

日本ウェルネススポーツ大学

[トップページ](#) [お問い合わせ](#) [最新のお知らせ](#) [最新のお知らせ](#)

試験情報 2013.02.18

後期學位認定試験結果発表日について

後期學位認定試験結果発表日は以下の通りです。

公表日：平成25年1月7日（木）17:00

※都合により上記の公表時刻を過ぎる場合があります。

試験は発表の後に追試験・再試験を予定しています。

追試験・再試験期間：3月9日（土）～3月15日（金）

追試験・再試験の日程については公表日にお知らせします。

事務局

2013年2月18日

別添5

国語管理システム | 国語管理システム | 国語管理システム | 国語管理システム | 国語管理システム | 国語管理システム

学生一覧印刷

学生登録

学籍番号:

(パスワード)

名前:

学生一覧印刷

学籍番号 (パスワード)	名前	実名	学籍
		XX	1101
		XX	1102
		XX	1103
		XX	1104
		XX	1105
		XX	1106
		XX	1107
		XX	1108
		XX	1109
		XX	1110
		XX	1111
		XX	1112
		XX	1113
		XX	1114
		XX	1115
		XX	1116
		XX	1117
		XX	1118
		XX	1119
		XX	1120

新旧対照表

旧	新 (修正箇所下線)
<p>卒業要件 次の①～④の条件を含めて 124 単位以上を修得すること。</p> <p>①共通科目から必修 10 単位を含めて 40 単位以上修得。</p> <p>②専門基礎科目から必修 8 単位を含めて 40 単位以上修得。</p> <p>③専門専攻科目のうち選択するコース科目 24 単位以上、それ以外のコースから 16 単位以上修得。</p> <p>④面接による授業科目を 30 単位以上修得。</p>	<p>卒業要件 次の①～④の条件を含めて 124 単位以上を修得すること。</p> <p>①共通科目から必修 <u>12</u> 単位を含めて 40 単位以上修得。</p> <p>②専門基礎科目から必修 8 単位を含めて 40 単位以上修得。</p> <p>③専門専攻科目のうち選択するコース科目 24 単位以上、それ以外のコースから 16 単位以上修得。</p> <p>④面接による授業科目を 30 単位以上修得。</p>
<p>履修科目の年間登録上限単位数 新入生、編入生ともに履修科目の年間登録上限は 40 単位とする。</p>	<p>履修科目の年間登録上限単位数 <u>新入生の履修科目の年間登録上限は 40 単位とする。但し、編入生の履修科目の年間登録上限は 46 単位とする。</u></p>
<p>履修形態、講義等の内容 トップスポーツマネジメント論演習Ⅰ (4 前, 2 単位, 印刷教材 20 時間・面接 10 時間) はじめに、アスリートの能力と技能を最大限に発揮するための諸条件について概説し、それらの諸条件が相互作用する競技環境について説明する。解説素材としてトップ競技マネジメントの構造、問題発生、対応の具体的事例を用いる。次いで、競技者能力を最高に発揮するトップスポーツとチーム運営に関する内外文献を抄読し、望ましいチーム運営の在り方を探求する。これに併せて、受講生のフィールドワークにおける問題発見と問題解決能力の習得を目指す。</p> <p>トップスポーツマネジメント論演習Ⅱ (4 後, 2 単位, 印刷教材 20 時間・面接 10 時間) トップスポーツマネジメント論演習Ⅰで整理した具体的事例から、受講生各自の興味・関心に応じた競技種目の事例を取り上げてより深く分析し、それを一つのモデルとし、それを応用し</p>	<p>履修形態、講義等の内容 トップスポーツマネジメント論演習Ⅰ (4 前, 2 単位, <u>面接 30 時間</u>) はじめに、アスリートの能力と技能を最大限に発揮するための諸条件について概説し、それらの諸条件が相互作用する競技環境について説明する。解説素材としてトップ競技マネジメントの構造、問題発生、対応の具体的事例を用いる。次いで、競技者能力を最高に発揮するトップスポーツとチーム運営、<u>指導の在り方</u>を探求する。これに併せて、受講生のフィールドワークにおける問題発見と問題解決能力の習得を目指す。</p> <p>トップスポーツマネジメント論演習Ⅱ (4 後, 2 単位, <u>面接 30 時間</u>) トップスポーツマネジメント論演習Ⅰで整理した具体的事例から、<u>特に指導場面を軸に</u>、受講生各自の興味・関心に応じた事例を取り上げてより深く分析し、それを一つのモデルとし、そ</p>

<p>てわが国における当該競技のトップスポーツマネジメントの方策をデザインする。これに併せて、受講生のフィールドワークにおける問題発見と問題解決能力の習得を目指し、競技種目を通じて議論・検討し、その蓄積を職務において活用できるようにする。</p>	<p>れを応用してわが国における当該競技のトップスポーツマネジメントの方策をデザインする。これに併せて、受講生のフィールドワークにおける問題発見と問題解決能力の習得を目指し、競技種目を通じて議論・検討し、その蓄積を職務において活用できるようにする。</p>
---	--